

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 秋山 晶子	提出日：平成 23 年 5 月 9日
東南アジア研究所における職名： *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ <input checked="" type="checkbox"/> ポストドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： インド・ワヤナッドソーシャルサービスソサエティ、Fr. John Choorappuzhayil *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学・研究機関・企業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他)	
派遣先の研究機関等での職名：研究員	
派遣期間：平成 23 年 2 月 20 日 ~ 平成 23 年 5 月 4 日(派遣日数：74 日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ①研究・実験 <input checked="" type="checkbox"/> ②フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> ③セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) <input checked="" type="checkbox"/> ①人文学 <input checked="" type="checkbox"/> ②社会科学 <input type="checkbox"/> ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥生物学 ⑦農学 ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度) 本研究の目的は、南インドの農村を軸に、有機農産物の生産、流通、消費の各段階において浮上する問題点と可能性を検討することである。そのうち今回の派遣では、生産の場に焦点をあて、有機農業の普及が進んでいるケーララ州、ワヤナッド県の調査村の現状とインド国内における農業政策及び有機農産物市場の動向の調査を実施した。 具体的には、派遣先であるワヤナッド・ソーシャルサービスソサエティの協力をえ、調査村において有機農業の転換をはじめた農家世帯の営農調査を行い、合計35世帯の営農の変化と有機農業に対する意識を聞き取りした。また、農業省の管轄組織である各地方自治体の農業局を訪れ、近年の農業政策の内容と実施計画、さらにローカル市場のける各作物の生産者価格の動向のデータも収集した。	
事業に係る研究成果(500~700字程度) 県内で有機農業が広まりはじめた1997年当初、調査村では14軒の農家が有機農業を開始した。それから14年が過ぎた現在、有機農家は83軒に増え、それぞれ有機農業に対する考えや採用している農法は多岐にわたっている。本調査においては、特にごく最近になって有機農業をはじめた少数民族のコミュニティーに着目し、初期に有機農業をはじめたキリスト教徒やヒンドゥー教・高カーストの農家との実践の違いを明らかにした。その結果、少数民族の有機農家は、それ以外の有機農家と比較し、より粗放的な栽培方法を行うとともに、有機農業を農的暮らしとしてではなく、1つの市場チャンネルとして理解する傾向が見られた。そのような比較を通じて、インドに限らず途上国において現在広く普及が進んでいる市場志向型の有機農業の問題点が徐々に浮き彫りになった。 本派遣の成果は、イギリス、サッセクス大学での派遣期間に論文としてまとめ、国際学術誌へ投稿を予定している。	